

橋下市長による「『慰安婦』制度は必要だった」発言に抗議し、

撤回と謝罪を求める要望書

私たち日本キリスト教婦人矯風会は、一九八〇年代から日本軍戦時性暴力被害者問題の解決を求めて、取り組んできた団体であります。

橋下徹大阪市長は五月一三日記者会見で、「従軍慰安婦制度は必要だった」と容認する考えを表明しました。また、「暴行、脅迫をして拉致した事実はない」さらに「慰安婦になってしまった方には心情を理解して優しく配慮していくことが必要だ」と述べています。これらの発言は歴史的事実に反するばかりか、全ての人間の人權を蹂躪しています。被害者の方々の尊厳をさらに踏みにじり、苦しめるこれらの発言を、私たちは到底許すことはできません。

日本政府の公式立場である「河野談話」を否定する発言を繰り返す橋下氏には、首長の資格はありません。市長の座を即刻おりてください。そして何よりも、被害者を傷つけるこれらの発言を撤回し、謝罪することを求めます。

二〇一三年五月一日

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会 理事長 佐竹順子

性・人權部門長 高橋喜久江

大阪市長 橋下 徹様